

令和 4（2022）年度 日本体育大学・日本体育大学大学院 入学式 午後（学長式辞）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。日本体育大学の教職員を代表して、皆さんを歓迎するとともに、心よりお祝い申し上げます。また、保護者の皆さま、本日は誠にありがとうございます。本来であれば、全ての新生と、多数のご家族の皆様をお招きして、お祝いをするところですが、感染防止の観点から、午後の式典は体育学部を除いた学部生及び大学院生、また、1 名のご家族の方のみのご参加となることを、御理解賜ればと思います。

さて、皆さんが晴れて入学された日本体育大学は、日高藤吉郎先生によって今から 131 年前の 1891 年に設立されました。131 年前と言えば、明治時代の中頃ですが、その当時は、初めて衆議院選挙が実施され、第 1 回の帝国議会が召集された時代でもあります。当時の日本では、スポーツが広く国民に行きわたっておりませんが、海外では第 1 回の近代オリンピックが開催された時期でもあります。本学は、日本が近代国家として整備されていく時代、またスポーツの国際競技大会が創設されていく時代に産声を上げており、大変長い歴史と伝統を有する大学であるといえます。

中でも、本学は、明治時代より一貫して体育やスポーツの指導者養成をしており、とりわけ多くの中学校や高等学校の保健体育科の教員を養成してきました。現在では、これに加えて、幼稚園、保育園、小学校、特別支援学校、養護教諭の教員養成や、各種スポーツの指導者養成を行っています。

また、本学は、あらゆるスポーツの競技力向上とそれを支える人の養成にも力を入れています。ご承知のように、昨年度は夏季及び冬季のオリンピック・パラリンピック大会が東京と北京で開催され、本学の学生、教職員、同窓生が、選手、コーチ、役員、医療従事者、ボランティアスタッフとして参加をしていました。また、大学に目を向けると、多くの学生が 70 以上ある学友会活動に参加し、学生生活を充実させています。

さらに、近年では、柔道整復・救急救命といった医療の分野で活躍できる人材の育成や、スポーツを通じた国際貢献のできる人材、スポーツ産業や人々の健康増進に貢献しうる人材の育成にも力を入れています。

このように本学では、皆さんのしてみたいこと、挑戦したいこと、あるいは将来こうなりたいといった夢の実現に向けて、様々な学びが用意されています。その学びを充実させるために、私からいくつかのお願いがあります。

1 つ目は、「問い」を持ってください。大学は学問の場であり、知的探求の場でもあります。スポーツや教育は人間にとってどのような価値があるのか。新しいスポーツ技術を身に

つけるには、どのような方法が効果的なのか。といった「問い」とその答えを、大学の授業や実習、そして学友会活動の中で発見するようにしてください。

2つ目は「つながり」や「きずな」を深める機会を持って下さい。本学は、日本全国、あるいは国を超えて学生が集まっています。こうして集まった人と深くつながり、きずなをつくって行って下さい。

大学院に進学された皆さんは、没頭できる何かを見つけ、それを徹底して探求して行って下さい。私も本学大学院の出身で、現在はスポーツ人類学を専門としています。スポーツ人類学とは、世界中に存在している様々なスポーツを文化として捉え、経験的な調査方法を動員して、考察していく学問分野です。私は20年以上前からミャンマーの伝統スポーツを対象にして、現地での調査を続けてきました。

私がここまでスポーツ人類学にのめり込むようになったのは、大学院2年目にイギリスの社会人類学者であるレイモンド・ファースが、1930年に書いた論文を読んだことがきっかけです。ファースは1928年から29年にかけて、大西洋南西部に浮かぶポリネシアのティコピア島でおこなわれているダーツの試合を詳細に調査しました。いわゆる槍投げについて調査したわけです。論文にはダーツの試合の方法やルールだけでなく、試合時に歌われる歌や感情的な行動が、単なる運動や遊びの域を超えて、その島の経済や宗教的生活にも重要な役割を果たし、またコミュニティ内の組織の構成員の人格にも影響を及ぼしていることを明らかにしました。私はこの論文を読んだときに、スポーツの研究がこれほどまでに大きな広がりや深みを持つことに驚くとともに、この研究に大変感銘を受けました。そして自分もいつか、異国の地でこのような研究をしたい、という強い憧れを持ったことを今でも鮮明に覚えています。

自分自身が没頭できる何かは、本当にひょんな出会いからはじまります。ぜひ大学院のうちに、没頭できるものと出会ってください。

人生100年時代と言われるようになりましたが、その中で大学あるいは大学院に在籍する期間は一瞬の時間かもしれません。しかし、この時間は、間違いなく皆さんの人生を方向付ける重要なものとなります。自分自身の目標をしっかりと持って、一歩ずつ進んでいくことで、夢の実現に近づくはずですよ。学生生活の中で、今までに出会うことのなかった世界と接続し、一回りも二回りも成長することを期待しています。

最後に、本学での学生生活が皆さんにとって、実り多く、充実したものになるように、お祈りし、私の式辞といたします。

令和4年4月3日
日本体育大学 学長 石井隆憲